

平成 19 年度試験研究成果書

区分	普及	題名	イチゴ「北の輝」秋春二期どり作型で採苗効率を向上させる2回採苗法		
[要約] イチゴ「北の輝」を用いた秋春二期どり作型において、ランナー切断同時短日処理、または採苗同時短日処理を組み合わせて、同一親株から2回採苗することにより、7月末までに短日処理が完了した定植苗が約2倍得られる。					
キーワード	イチゴ	秋春二期どり	2回採苗	園芸畑作部	野菜畑作研究室

1 背景とねらい

イチゴ秋春二期どり作型では、6月中旬から短日処理を開始するため、採苗時期が通常の促成作型よりも早く、さらにランナー発生の遅い「北の輝」を用いることから、採苗効率が低いことが課題とあった。

そこで、鉢受け直後の若苗でも短日処理による花成促進が可能であることを利用し、採苗・育苗の効率化を図る方法について検討した。

2 成果の内容

- (1) 同一親株から5月中旬とその3～4週間後の2回の採苗を行うことにより、7月末までに短日処理が完了した定植苗を慣行の約2倍得ることができる(表1)。
- (2) 1回目の採苗は5月中旬に行い、2週間後にランナーを切断、その後2週間の養成を経て短日処理を開始する。2回目の採苗は6月上～中旬に行い、6月上旬採苗の場合は鉢受け後2週間でランナーを切断し短日処理を行う「ランナー切断同時短日処理」を行う。また、6月中旬採苗の場合は、鉢受けと同時に親株と子苗を連結したまま短日処理を開始する「採苗同時短日処理」(図1)。
- (3) 6月下旬に短日処理を開始すると花芽分化が遅延もしくは停滞し、定植が8月以降に遅れ、秋期収量が減少する(表2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 本成果における供試品種は「北の輝」であり、採苗は鉢受けで行った。
- (2) 採苗同時短日処理では、2週間後にランナーを切断する。
- (3) 採苗1回目の苗においても「ランナー切断同時短日処理」または「採苗同時短日処理」が可能であるが、盛夏期の収穫を避けるため慣行通り6月中旬からの短日処理開始、7月中旬以降の定植とすること。
- (4) 「北の輝」を用いた秋春二期どり作型では、5月中～下旬が収穫最盛期(収穫・調製・出荷作業で10a当たり約600時間)であり、田植えなど農繁期に重なるため採苗作業が困難であったが、本技術により採苗作業の平準化を図ることができる。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域の無加温ハウス利用イチゴ栽培者
- (2) 期待する活用効果 親株当たりの採苗数を約2倍に向上できることから、親株の必要数を半減でき、購入・養成コストの低減が図られる
農繁期における採苗作業を2回に分散することにより、作業労力の平準化が図られる

5 当該事項に係る試験研究課題

- (H15-40) 東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発[平成15～19年, 国庫委託]
(1000) 短日処理による10～11月どり超促成栽培技術の開発

6 参考資料・文献

- (1) 平成17年度試験研究成果(指導)「いちご短日処理育苗による無加温ハウス秋春二期どり栽培」
- (2) 平成18年度試験研究成果(指導)「いちご二期どり作型の経営モデルの策定」
- (3) 平成16年度試験研究成果(研究)「いちごの超促成作型における課題と目標収量」

7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 同一親株からの採苗間隔と採苗数(2007)

採苗間隔	採苗日(上段:月/日)、採苗数(下段:苗/親株)			1回目+2回目の合計 採苗数(苗/親株)
	1回目	2回目	3回目	
3週間	5/17	6/5	6/27	-
	4.5	3.3	4.3	7.8
4週間	5/17	6/13	-	-
	4.5	5.4	-	9.9

1.親株には、低温に十分遭遇させた後、2/5に無加温ハウス(内張り及びトンネルの3重被覆)へ移動したものをを用いた。

2.両区とも、同一の親株を用いて、2回もしくは3回の採苗を実施した。

表 2 各採苗・短日処理方法における処理時期別の出蕾株率および商品果収量(2007)

採苗・短日処理方法	採苗日	ランナー 切断日	短日 処理 開始日	定植日	出蕾株 率(%)	秋期商品 果収量 (g/株)
慣行採苗・短日処理	5/17	5/29	6/12	7/23	96	159.9
ランナー切断同時短日処理	5/29	6/12	6/12	7/18	96	139.9
	6/5	6/19	6/19	7/27	100	160.3
	6/13	6/26	6/26	8/5	86	131.7
採苗同時短日処理	6/12	6/26	6/12	7/23	100	162.3
	6/27	7/10	6/27	x	x	x

1.短日処理は、午後5時から午前9時までの16時間、高遮熱遮光フィルムによる遮光で行った。

2.各処理区とも、花芽分化初期のステージとなる株が8割以上となることを確認後、定植した。

3.ランナー切断同時短日処理の6/13採苗区は、8/17(短日処理51日)時点で、花芽分化を確認できなかった。

4.出蕾株率は、定植後、秋期までに出蕾した株の割合。

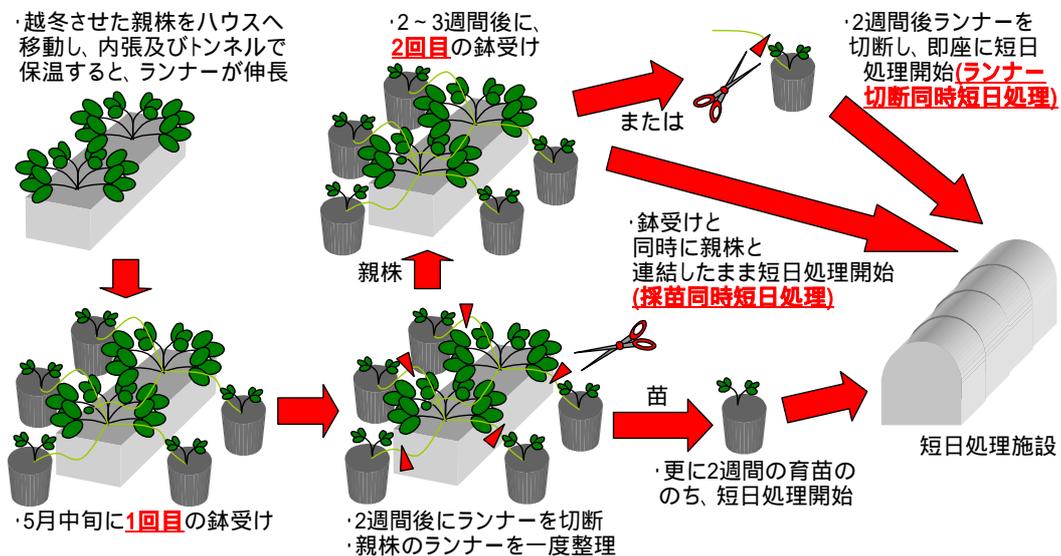


図 1 ランナー切断同時短日処理または採苗同時短日処理による 2 回採苗方法